

令和元年度

烏山北小学校 校内研究

4年分科会 提案授業

教科:社会

9月6日(金)

授業者:長岡 恭平

1 研究主題

(1) 研究主題

「世田谷9年教育」研究開発 CM(カリキュラム・マネジメント)スクール

これからの社会を生き抜く児童の育成

～社会科を軸としたカリキュラム・マネジメントを通して～

(2) 目指す児童像

自分と世の中をつなぐ子	自分と人をつなぐ子	考えと考えをつなぐ子
世の中に目を向ける 未来の世の中を意識する 世の中で行動する	ペアで学ぶ グループで学ぶ 学級で学ぶ	自分の考えをもつ 考えと考えをつなぐ 1つの考えを生み出す

2 協議会で話し合うこと

(1) 学習問題づくりについて。(成功例や失敗例)

(2) 本時の中や単元の中で見られるカリマネポイントはどこか。

《画用紙》 分科会で話し合いながら書き、ホワイトボードへ！

青:成果／黄色:質問／ピンク:課題

「自然災害からくらしを守る ～火山災害の学習を通して～」(全9時間)

4学年2組 31名
場所：4年2組教室
授業者：長岡 恭平

1 単元の見目標

○過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して、聞き取り調査をしたり地図や年表などの資料で調べたりして、まとめて、災害から人々を守る活動を捉え、その働きを考え、表現することを通して、地域の関係機関や人々は、自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを理解する。

2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
○過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などについて聞き取り調査をしたり地図や年表などの資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、災害から人々を守る活動を理解している。 ○調べたことを文などにまとめ、地域の関係機関や人々は、自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを理解している。	○過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して、問いを見出し、災害から人々を守る活動について考え、表現している。 ○自然災害が発生した際の被害状況と災害から人々を守る活動を関連付けて地域の人々の命や財産を守るなどの活動の働きを考えたり、学習したことを基に、地域で起こり得る災害を想定し、日頃から必要な備えをするなど、自分たちにできること日頃からの備えをするなど、自分たちにできることなどを考えたり選択・判断したりして表現している。	○自然災害から人々を守る活動について、予想や学習計画を立てたり、見直ししたりして、主体的に学習問題を追究・解決しようとしている。 ○学習したことを基に、地域で起こり得る災害を想定し、日頃から必要な備えをするなど、自分たちにできること日頃からの備えをするなど、自分たちにできることなどを考えようとしている。

3 小単元について

- ・小学校学習指導要領解説社会編第4学年の目標〔P48～51〕及び内容(3)〔P58～62〕を受けて設定。
- ・他の先行実践で類を見ない火山災害を軸に単元を構成。
- ・小単元の最後に「防災クイズ」を出し、自分の考えを選択・判断する時間を設け、学習してきたことを基に話し合う時間を設定。
- ・本小単元は、新学習指導要領では、第3学年で学習してきた既習事項が数多く出てきたり、他教科との関連が複数出てきたりするところにカリマネできる面白さがある。

4 カリマネ Point (カリマネ的鳥北プラン参照)

縦 カリ	既習	① 第3学年：わたしたちの町 「鳥山の様子」「世田谷の様子」 ② 第4学年：わたしたちの東京都 「東京都を調べよう」
	同学年	① 第4学年：安全なくらしを守る 「火事をふせぐ」「交通事故をふせぐ」※移行 ② 第4学年：住みよいくらし「くらしを支える水(電気・ガス)」
	他学年	① 第5学年：わたしたちのくらしと国土 「日本の地形と気候」 「自然条件と人々のくらし」 ② 第5学年：くらしを支える情報 「情報を伝える人々」 ③ 第5学年：国土の自然とともに生きる 「自然災害とともに生きる」 ④ 中学地理：世界から見た日本の姿 ⑤ 中学公民：地方自治とわたしたち
	総合	① 第3～6学年：防災教育
	国語	① 第5学年：「十秒」が命を守る
横 カリ	理科	① 第5学年：「台風の接近」 ② 第5学年：「雲と天気の変化」
	道徳	① 第5学年：節度、節制 「いつもの避難訓練」 ② 第6学年：勤労、公共の精神 「自分にできること」
	その他	① 全学年：避難訓練

5 授業デザイン図

4年—3 「自然災害からくらしを守る～火山災害の学習を通して～」【9時間】

オリエンテーション 第1時 東京都の自然災害

つかむ

資料

学習問題

予想

第2・3時

現在の大島
(写真)

火山災害の様子
(写真と説明文)

大島の火山災害
(死者・負傷者数のグラフ)

火山災害から人々のくらしを守るために、だれがどのようなことをしているのだろうか。

F1

たくさんの人たちが協力して助け合っていると思う。
【地域の関係諸機関の協力と対処】

F2

地域の人たちも自分たちでできることをしていると思う。
【地域の災害に対する備え】

F3

町で火山災害に対する被害を減らすための工夫をしていると思う。
【町の災害に対する備え】

F4

東京都で、今までの自然災害をもとに、対策を立てていると思う。
【東京都の災害に対する備え】

調・考

問い

資料

まとめ

第4時

《自然災害の対処》
災害が起きたとき、だれが、どのように救助したのだろう。

・大島町長の話(文)
・対策本部や自衛隊が救助している写真

A1

教育長や町長など多くの関係者が集まり、対策本部が設置される。その後、対策本郡や東京都が被害状況の把握や避難状況の確認、整理、要請、支持等を行い、多くの人たちで協力して救助した。

第5時

《地域の災害に対する備え》
伊豆大島でくらす人たちは、火山災害に備え、どのようなことをしているのか。

・ハザードマップ
・発見者通報の仕組み
・避難訓練の様子

A4

大島町では、避難訓練を行ったり、ジオパークガイドやダイビングのインストラクターなどと協力して火山を調査したりして、自分たちでも協力し合いながら、様々な備えをしている。

第6時

《町の災害に対する備え》
大島町では、火山災害に備えて、どのようなことをしているのか。

・大島町防災の手引き
・ジオパークの取組
・避難指示の流れの図

A3

大島町では、防災の手引きを作ったり、ジオパークめぐりを企画したりして火山防災についての情報を島民以外にも発信している。

第7時

《東京都の災害に対する備え》
東京都は、火山災害に備えてどのようなことをしているのか。

・東京都防災HP
・防災ノート
・気象庁の観測機器

A2

東京都は、インターネットのHPを通じて防災を呼びかけたり、他の機関と協力をして火山活動の観測を行ったりして、噴火に備えている。

まとめる

学習問題に対する自分の考え

第8時

火山災害から生活を守るために、人々は災害が起きた時には、様々な人や機関と協力し合って救助活動を行っている。また、東京都、市区町村、各地域は、くらしを守るために様々なそなえをしている。

第9時

【問い】 もし、自然災害が起きたらどのように行動すればよいだろう。

地震や台風、火山災害などの自然災害はいつ起こるのか分からない。自然災害が起こったときにそなえて、自分の命を自分で守っていくことができるように、自分にできることを考えて行動していきたい。

6 一単位時間の指導 第1時 (全9時間)

9月5日(木) 3校時

(1) ねらい

- ・東京都では現在までに、様々な場所で様々な自然災害が起こっていることを知る。

(2) 展開

		【学習形態】 ○学習活動 ・児童の反応	★指導上の留意点 ■資料(種類) ◎評価規準【観点】(評価方法)
つかむ	① 10分	【一斉】 ○自然災害には、どのような災害があり、どのような被害が出るのかを考える。 ・台風がきたよ。 ・大雪が降ったときもあったね。 ・地震も起きたよ。	★生活経験と結び付けて発言させ、単元への意欲付けを行う。 ■自然災害(写真)
		めあて 東京都では、どのような自然災害が起きているのだろうか。	
調べ・考える	② 10分	【個人】→【なるこみ】→【全体】 ○どのような自然災害が「どこで」起こっているのかを読み取り、分かったことを共有する。 ・地震は地面が割れている。 ・台風で木が倒れている。 ・火山の噴火で、灰がつもっている。	■東京都の自然災害(地図) ★災害の種類を色別に分けた写真資料によって、視覚的にどの種類の災害かを分かりやすくする。 ★ワークシートの白地図を活用することによって、空間的な見方に着目させる。
	③ 15分	【一斉】 ○東京都では、どこで「いつ」自然災害が発生しているのかを考える。 ・同じ年(近い時期)に、違う災害が起きることもある。 ・場所によって、起きやすい災害が違う。 ・様々な場所で自然災害は発生する。	■東京都の自然災害(年表) ★自分が生まれた歳を年表に書き込ませる。 ★年表を活用することによって、時間的な見方に着目させる。 ★災害の種類を色別に分けた年表資料によって、視覚的にどの種類の災害かを分かりやすくする。
まとめる	④ 10分	【個人】→【一斉】 ○学習のまとめを書く。	★まとめの主語を、全体で確認してから個人のまとめを書かせるようにする。 ◎「過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などについて地図や年表などの資料で調べたりして、必要な情報を集めたりして読み取ったことを理解しているか。」を評価する。 【知識①】 (発言・ノート)
		まとめ 東京都では、地震災害や風水害による洪水、土砂災害や火山による災害など、色々な時期に、様々な場所で自然災害が発生している。	

(1) ねらい

・伊豆大島で大きな火山災害が起きたことを知り、学習問題をつくる。

(2) 展開

		【学習形態】 ○学習活動 ・児童の反応	★指導上の留意点 ■資料（種類） ◎評価規準【観点】（評価方法）
つかむ	① 5分	【ペア】→【一斉】 ○前時の学習を振り返る。 ・東京都では、様々な場所で自然災害が起きていた。 ・自然災害は、いつ起こるのかわからない。 ○東京都にある火山（大島）を確認する。 ・東京都に火山なんてあるのかな。 ・大島で噴火したと前回の資料にあったよ。	■東京都の自然災害（前時の資料） ■地図帳 ■大島のデータ（パワーポイント）
		めあて 火山災害の様子を知り、学習問題をつくろう。	
調べ・考える	② 15分	【個人】→【なるこみ】 ○火山災害はどのようなことが起きるか予想する。 ・岩が飛んでくるのではないか。 ・溶岩が流れてくるのではないか。 ○火山災害で起こることを知る。 ・火さい流 ・火山ガス ・津波 ・ふん石 ・火山灰	■1986年大島の噴火（写真） ■噴火のときに起こる現象（絵） ★調べるべきことが児童からでてくるような写真資料を用いて、思考を誘導する。
	③ 20分	【一斉】 ○調べた災害を確認する。 ・火山が噴火するとおそろしい。 ・一度噴火が起これば、様々なことが起きるんだ。 ○大島について疑問を出し合い、学習問題をつくる。 ・1957年は、死者1名、53名がけがをした。 ・1986年は、死者、けが人共に0名だ。 ・どうして0人だったのだろう。 ・安心して住めるように何か取り組みをしているのかな。 ・どのようなことをして命を守ったのだろう。	■大島のデータ（グラフ） ★補助発問「噴火が起きる場所に、どれくらいの人が住んでいるのか。」「実際に噴火が起きるとどれくらいの人が被害にあったのか。」を入れて、児童の「なぜ危険な場所に住んでいられるのか。」「何か安全な暮らしのための工夫があるのでは。」という思考につなげる。 ★火山災害という視点から外れないように、学習問題の最初の言葉を全体で「火山災害」に固定する。 ◎「過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して、問いを見出し、災害から人々を守る活動について考え、表現しているか。」を評価する。 【思考①】（発言・ノート）
まとめる		<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 学 習 問 題 火山災害から暮らしをまもるために、だれがどのようなことをしているのだろう。 </div>	
	④ 5分	【一斉】 ○次時の見通しをもつ。 ・次回は学習問題に対する予想を出して、計画を立てていく時間だね。	★本時が単元の中のどの位置なのかを確認させることにより、自ら学ぶ意識を高めさせるようにする。
		めあて 学習問題の予想を考え、学習の計画を立てよう。	

第3時（全9時間）

(1) ねらい

・学習問題の予想を考え、学習の計画を立てる。

(2) 展開

		【学習形態】 ○学習活動 ・児童の反応	★指導上の留意点 ■資料（種類） ◎評価規準【観点】（評価方法）
つかむ	1 5分	<p>○前時までの学習を振り返る【一斉】 ・学習問題をつくった。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>学習問題</p> <p>火山災害からくらしをまもるために、だれがどのようなことをしているのだろう。</p> </div> <p>○めあての確認をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>めあて 学習問題の予想を考え、学習の計画を立てよう。</p> </div>	<p>■学習問題揭示</p>
	2 25分	<p>【個人】 ○学習問題の予想を立てる。 ①だれが ・警察 ・自衛隊 ・消防士 ・総理大臣 ・都知事 ・町役場の人 ・地域の人</p> <p>②どのように ・交通整備をして避難させたと思う。 ・船を用意し、避難させたと思う。 ・避難所を用意したと思う。</p> <p>・事前に避難の練習をしていると思う。 ・放送で伝えられるようにしていると思う。 ・安全マップを作っていると思う。</p>	<p>■自衛隊が出動している様子（写真） ■避難所での生活（写真） ★消防・警察・区役所の仕事の学習をしている場合、既習事項を使って予想させる。（カリマネ）</p>
予想する	4 15分	<p>【個人】→【一斉】 ○学習問題の予想から、学習計画を立てる。 ①たくさんの人たちが協力し合って、助けていると思う。 →第4時 自然災害への対処 ②地域の人たちも自分たちでできることをしていると思う。 →第5時 地域の災害に対するそなえ ③大島町で火山災害に対する被害を減らすための工夫をしていると思う。 →第6時 市区町村の災害に対するそなえ ④国や、東京都で、今までの自然災害をもとに、対策を立てていると思う。 →第7時 東京都の災害に対するそなえ ○学習計画を基に、次時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>めあて 火山災害が起きた時、だれが、どのようなことをしたのだろう。</p> </div>	<p>★「災害が起きたあと」「災害が起きる前」で意図的に板書を分類することにより、学習の計画を明確にしていく。（＝対処と備え）</p> <p>★本時が単元の中のどの位置なのかを確認させることにより、自ら学ぶ意識を高めさせるようにする。 ◎「学習問題の解決に向けた予想や学習計画を立て、解決の見通しをもとうとしていたか。」を評価する。 【態度①】（発言・ノート・学習計画表）</p>

第4時（全9時間）

(1) ねらい

- ・自然災害が起きたとき、だれが、どのようなことをしたのかを調べ、理解する。

(2) 展開

		【学習形態】 ○学習活動 ・児童の反応	★指導上の留意点 ■資料（種類） ◎評価規準【観点】（評価方法）
つかむ	① 5分	<p>【一斉】</p> <p>○前時のふりかえりから本時のめあてを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前は、学習の計画を立てた。 ・今日は、災害が起きたときの学習だ。 <p>めあて 火山災害が起きたとき、だれが、どのようなことをしたのだろう。</p> <p>○本時のめあてに対する予想を話し合う。</p> <p>①警察や消防士が避難をさせていると思う。</p> <p>②自衛隊が救助してくれたと思う。</p> <p>③町役場にいる人たちで協力して救助を行ったと思う。</p>	<p>■自衛隊の救助（写真）</p> <p>■消防団の救助（写真）</p>
	② 15分	<p>【個人】→【一斉】</p> <p>○「大島町長の話」から、誰がどのようなことをしたのか調べる。</p> <p>①教育長や町長が中心になって対策本部が作られた。</p> <p>②大島町長から東京都へ被害状況を伝え、東京都が自衛隊を要請した。</p> <p>③消防や警察、消防団の人たちも現場で救助を行った。</p>	<p>■大島町長の話（文）</p> <p>■大きな災害時の連携（図）</p> <p>★警察や消防、役所の働きの学習につなげる。</p>
調べ・考える	③ 10分	<p>○どのような人たちが、最初に帰島できたかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・島民だと思う。 ・電気やガスの仕事をしている人だと思う。 ・病院関係の人じゃないかな。 	<p>■「防災の手引き（火山編）」全島帰還より（文）</p> <p>★電気・ガスの学習をつなげる。</p>
	④ 10分	<p>【個人】→【一斉】</p> <p>○学習のまとめを書く。</p> <p>まとめ 災害が起こると、大島町長など多くの関係者が集まり、対策本部が設置される。その後、対策本部や東京都が被害状況の把握や避難状況の確認、避難所の設置、要請、指示などを行い、多くの人たちで協力して避難する。</p> <p>つまり 災害の後でも、安全なくらしができるように、復旧作業をして安全を確保してから島に帰還させ、たくさんの人たちが協力して災害を乗り越えている。</p>	<p>★学習のまとめは、話し合った内容を意識して書かせる。</p> <p>★書くことに困っている児童がいた場合、まとめの主語を「災害が起こると」にして始めるとよいことを伝える。</p> <p>◎「関係機関の協力などについて、必要な情報を集め、読み取り、災害から人々を守る活動を理解しているか。」を評価する。</p> <p>【知識①】（発言・ノート）</p>
まとめる	⑤ 5分	<p>○次時のめあての確認を行う。</p> <p>めあて 伊豆大島でくらす人々は、火山災害にそなえ、どのようなことをしているのだろうか。</p>	<p>■学習計画表</p> <p>★児童の学習に向かう意欲を持続させ、予想を家で考えられるようにする。</p>

第5時（全9時間）

(1) ねらい

- ・地域の災害に対する備えを調べ、地域で協力して災害に備えている意味について考える。

(2) 展開

		【学習形態】 ○学習活動 ・児童の反応	★指導上の留意点 ■資料（種類） ◎評価規準【観点】（評価方法）
つかむ	① 10分	【一斉】 ○前時の振り返りと本時のめあてを確認する。 ・前回は、災害が起きたときにどのようにしているかを調べた。 ・今回は、大島町の人々のそなえを調べる時間だ。	
		めあて 伊豆大島でくらす人々は、火山災害にそなえ、どのようなことをしているのだろうか。	
調べ・考える	② 10分	【個人】→【一斉】 ○「防災対策本部長の話」から、どのようなそなえをしているかを調べ、話し合う。 ・防災訓練をして、島外避難になった場合などを確認している。 ・各家庭で、避難道具を準備している。 ・消防団を作っている。 ・ジオパークの職員や、ダイビングのインストラクターと協力して火山の様子を見ている。	■防災対策本部長の話（文）
	③ 10分	【一斉】 ○なぜ、地域の人たちはこのような備えを行っているのか考える。 ・1人ひとりがいざという時に動けるように備えている。 ・多くの人の安全や生活を守るために備えている。 ・お互いに協力し合い、安全に過ごせるために備えている。	★調べて分かったことを基に、話し合わせる。
まとめる	③ 10分	【個人】→【一斉】 ○学習のまとめを書く。 まとめ 大島町でくらす人たちは、避難訓練をしたり、家で避難道具をそなえたりしている。また、地域の人たちで協力し合い、人々の安全や安心を守るために様々な備えをしている。 つまり 災害が起きた時に自分たちで協力し合い、お互いの身や生活の安全を守ろうという意識をもってそなえている。	★書くことに困っている児童がいた場合、まとめの主語を「大島町でくらす人々は、」にして始めるとよいことを伝える。 ★学習のまとめは、話し合った内容をふまえて書かせる。 ◎「地域の人々は、自然災害に対し、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを理解しているか。」を評価する。 【知識②】 （発言・ノート）
	④ 5分	【一斉】 ○次時のめあてを確認する。 めあて 大島町は、火山災害にそなえ、どのようなことをしているのだろうか。	■学習計画表 ★児童の学習へ向かう意欲を継続させ、予想を家で考えられるようにする。

第6時（全9時間）

(1) ねらい

- ・大島町の災害に対する備えを調べ、伊豆大島防災の手引きを作っている人たちの願いを考える。

(2) 展開

		【学習形態】 ○学習活動 ・児童の反応	★指導上の留意点 ■資料（種類） ◎評価規準【観点】（評価方法）
つかむ	① 10分	【一斉】 ○前時の振り返りから本時のめあてを確認する。 ・前は、大島でくらす人々のそなえを学習した。 ・今回は、大島町のそなえを調べる時間だ。	
		めあて 大島町は、火山災害にそなえ、どのようなことをしているのだろうか。	■大島町噴火警戒レベルのハザードマップ（地図）
調べ・考える	② 10分	【個人】→【なるこみ】 ○「伊豆大島防災の手引き」を見て、どのようなそなえをしているかを調べ、話し合う。 ・島内にいる人にエリアメールの配信ができるようにしている。 ・防災無線や広報車で知らせている。 ・緊急時にどうすれば良いかマニュアルを作っている。 ・ジオパークを作り、島に来た人たちに噴火のことを伝えている。	■「伊豆大島防災の手引き」より抜粋（文） ■ジオパークの取組（写真と文）
	③ 10分	【一斉】 ○なぜ、大島町はこのような「火山災害の手引き」を作っているのかを考える。 ・島民や島に来た人たちの安全と安心を守るために備えている。 ・自分たちで行動できるように様々な形で情報を発信している。	★調べて分かったことを基に、話し合わせる。
まとめる	③ 10分	【個人】→【一斉】 ○学習のまとめを書く。 まとめ 大島町では火山災害にそなえて、防災の手引きを作ったり、噴火した際にどのように行動したらよいのかを呼びかけたりしている。 つまり 島民やそこに訪れた人たちの安全や安心を守るために、様々な情報を人々に発信している。	★書くことに困っている児童がいた場合、まとめの主語を「大島町では、」にして始めるとよいことを伝える。 ★学習のまとめは、話し合った内容をふまえて書かせる。 ◎「市区町村は、自然災害に対し、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを理解しているか。」を評価する。 【知識②】 （発言・ノート）
	④ 5分	【一斉】 ○次時のめあてを確認する。 めあて 東京都は、火山災害にそなえ、どのようなことをしているのか。	■学習計画表 ★児童の学習へ向かう意欲を継続させ、予想を家で考えられるようにする。

第7時 (全9時間)

(1) ねらい

- ・東京都が、今後想定される自然災害から人々を守るために様々な備えを行っていることを資料から調べ、東京都の取組について理解する。

(2) 展開

		【学習形態】 ○学習活動 ・児童の反応	★指導上の留意点 ■資料(種類) ◎評価規準【観点】(評価方法)
つかむ	① 8分	【一斉】 ○前時のふりかえりから本時のめあてを確認する。 ・前は、大島町のそなえを調べた。 ・今回は、東京都のそなえを調べる時間だ。 めあて 東京都は火山災害にそなえ、どのようなことをしているのだろうか。	
		○本時のめあてに対する予想を話し合う。 ・火山を見張っているのではないか。 ・防災ノートというのがあることを知っているよ。	
調べる・考える	② 12分	【個人】→【なるこみ】 ○資料を見て、東京都が火山災害に対してどのような取り組みをしているのか調べ、話し合う。 ①東京都防災HPには、子供向けの資料がのっている。 ②防災ノートに火山の場合の避難の仕方がのっている。 ③気象庁などの機関と連携して様々な機械を使って観測している。	■東京都防災HP ■防災ノート ■「伊豆大島防災の手引き」 ★資料から得た事実(分かったこと)と資料から得た事実をもとに自分が考えたこと(考えたこと)を区別してノートにまとめるように促す。
	③ 10分	【一斉】 ○取組を調べて、1番よいと思った備えについて話し合う。 ・子供たちにもわかるようにHPを作っていていいと思う。 ・各家庭に1冊ずつ防災ノートを配っているのすごいい。 ・他の機関と協力して24時間毎日観測を続けていることが、電気、ガスの学習に似ている。	★事実と児童の考えを整理して板書する。 ★調べたことや既習事項をもとに話し合わせる。
まとめる	③ 10分	【個人】→【一斉】 ○学習のまとめを書く。 まとめ 東京都は火山災害にそなえ、子供たちにも分かりやすいようにHPを作ったり、各家庭に防災ノートを配布したり、気象庁などと協力して火山を観察したりしている。 つまり 少しでも火山災害の被害を減らし、人々が安全で安心して暮らせるように様々な備えを行っている。	★学習のまとめは、話し合った内容をふまえて書かせる。 ★資料から得た事実だけでなく、そこから考えられることもまとめに入れさせる。 ◎「東京都や関係機関は、様々な備えをしていることを理解しているか。」を評価する。 【知識②】(発言・ノート)
	④ 5分	【一斉】 ○次時のめあてを確認する。 めあて 学習問題に対する自分の考えを書こう	■学習計画表 ★児童の学習へ向かう意欲を継続させ、家で学習した内容をふり返らせておく。

第8時（全9時間）

(1) ねらい

- ・東京都が今後想定される自然災害に対し、様々な備えをしていることを理解し、自然災害による被害を減らすために、関係諸機関の活動と人々の生活について考え、文章などで表現する。

(2) 展開

		【学習形態】 ○学習活動 ・児童の反応	★指導上の留意点 ■資料（種類） ◎評価規準【観点】（評価方法）
つかむ 考える まとめる	1 10分	<p>【一斉】 ○本時のめあてを確認する。</p> <p>めあて 学習問題に対する自分の考えを書こう</p> <p>○学習問題を確認する。</p> <p>学習問題 火山災害からくらしを守るために、だれがどのようなことをしているのだろう。</p> <p>○調べてきたことを振り返る。 ・自然災害起きた時に、人々は協力して被災した人たちの安心や安全を守っている。 ・東京都は過去の災害を受けて、HPを通して情報を発信したり、気象庁などと協力したりして災害に備えている。 ・大島町は多くの人の安全を守るために、様々な情報をいろいろな形で提供している。 ・島でくらす人たちは、避難訓練をしたり、地域の人たちで協力し合ったりして、人々の安全や安心を守るために様々な備えをしている。</p>	<p>■一単位時間ごとの学習のまとめ（文章）</p>
	2 20分	<p>【個人】 ○学習問題に対する自分の考えをまとめる。</p> <p>学習問題に対する自分の考え 火山災害から生活を守るために、人々は災害が起きた時には、様々な人や機関と協力し合って救助活動を行っている。また、東京都、市区町村、各地域は、くらしを守るために様々なそなえをしている。</p> <p>つまり 火山災害の被害を少しでも減らし、自分たちの生活や安全を守るためにできることを考え協力し合っている。</p>	<p>《学習問題に対する自分の考えに書く内容》 ・小単元を調べて分かったこと ⇒ ・ つまり だから などの接続する言葉 自分の考え、自分とのつながり</p>
	3 15分	<p>【一斉】 ○学習問題「火山災害からくらしを守るために、だれがどのようなことをしているのだろうか。」に対する自分の考えを交流し合う。</p>	<p>◎自然災害が発生した際の被害状況と災害から人々を守る活動を関連付けて地域の人々の命や財産を守るなどの活動の働きを考えまとめているか。」を評価する。 【思考②】（発言・ノート）</p>

第9時（全9時間）

(1) ねらい

・自然災害が起きた時の問題点や自分たちにできることを選択・判断し、自分の考えをまとめる。

(2) 展開

		【学習形態】 ○学習活動 ・児童の反応	★指導上の留意点 ■資料（種類） ◎評価規準【観点】（評価方法）
つかむ	① 5分	<p>【一斉】</p> <p>○前時の振り返りを行う。</p> <p>学習問題に対する自分の考え</p> <p>火山災害から生活を守るために、人々は災害が起きた時には、様々な人や機関と協力し合って救助活動を行っている。また、東京都、市区町村、各地域は、くらしを守るために様々なそなえをしている。</p> <p>つまり</p> <p>火山災害の被害を少しでも減らし、自分たちの生活や安全を守るためにできることを考え協力し合っている。</p> <p>○本時のめあてを確認する。</p>	■噴火のときに起こる現象（写真・文章）
		<p>めあて 大きな自然災害が起きた時、私たちは何ができるだろうか。</p>	
考える	② 15分	<p>【個人】→【一斉】</p> <p>○実際に火山災害に合った場合、どのように行動したらよいか考える。</p> <p>「あなたは、家族旅行で大島に来ていました。避難の指示が出て、元町港に避難してきました。しかし、移動途中たくさんの地元の住民も避難をしに、港に集まってきて、家族とは離れてしまいました。船に乗るために整列が始まりました。あなたの家族は、港には見当たりません。緊急事態のため、通信が集中して携帯電話はつながらない状態です。あなたは、家族の安全が不明なまま整列して、乗船しますか。」</p>	<p>★全員が議論できるように、自分の考えをノートに書かせる。</p> <p>★既習事項を生かして理由づけできるようにする。</p>
	③ 15分	<p>○自分の考えを交流する。</p> <p>A乗船します。なぜなら、今はいなくても、自衛隊や地域の人たちが協力して避難誘導してくれているはずだからです。</p> <p>B乗船しません。なぜなら、家族と離れるのは嫌だからです。</p>	<p>★単独行動をして命を助けられた例も紹介しつつも、選択の仕方によっては、命の危険も伴うことにもふれる。</p> <p>◎「学習したことを基に、地域で起こり得る災害を想定し、日頃から必要な備えをするなど、自分たちにできること日頃からの備えをするなど、自分たちにできることなどを考えようとしているか。」を評価する。</p> <p>【態度②】</p>
まとめる	④ 10分	<p>【個人】→【一斉】</p> <p>○小単元の学習をふまえた学習のふりかえりを書く。</p> <p>まとめ</p> <p>地震や台風、ゲリラ豪雨などの自然災害はいつ起こるか分からない。だからこそ、ハザードマップや通学路の安全を確認したり、避難のための物資を用意したりと、災害に備えて準備や家族のきまりを決めておく必要がある。また、災害が起きた時に、自分たちのやれることを探し、実行することが大切であると感じた。</p>	<p>■世田谷区防災計画（文）</p> <p>◎「学習したことを基に、地域で起こり得る災害を想定し、日頃から必要な備えをするなど、自分たちにできること日頃からの備えをするなど、自分たちにできることなどを考えたり選択・判断したりして表現しているか。」を評価する。</p> <p>【思考②】（発言・ノート）</p>